

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	バラー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.520	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：バラー

フレアーの幅  インチ

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

ポリッシュ

番

PAPからピンとの距離

4-1/2 インチ

研磨剤

MB

4in1/2

比較対照ボール：サベージ・ライフ

フレアーの幅  インチ

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

ポリッシュ

番

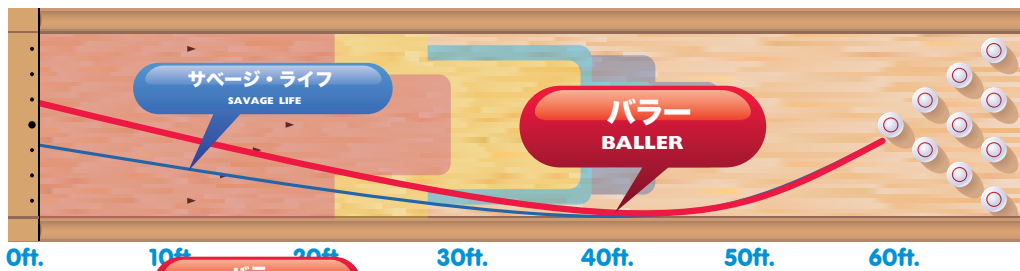
PAPからピンとの距離

4-1/2 インチ

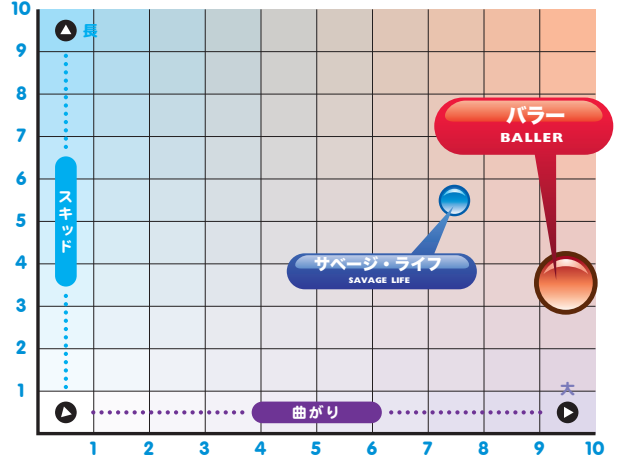
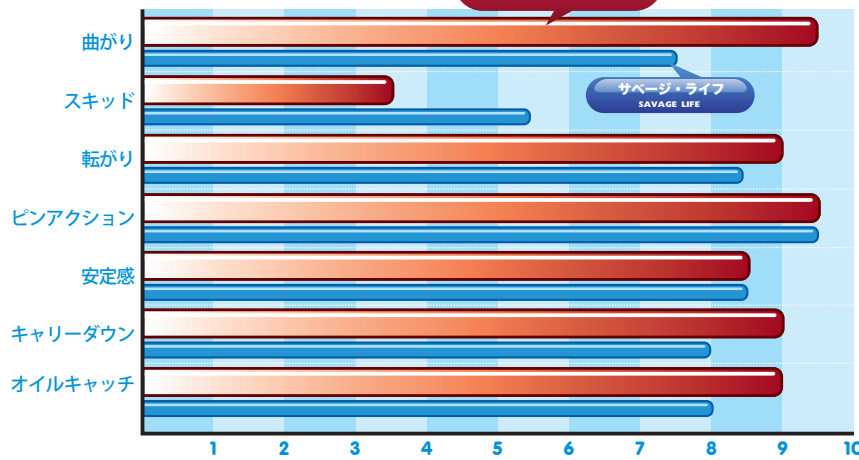
研磨剤

MB

4in1/2



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



### ボールの評価

Columbia300は9月に発売するボールに対し、様々な舞台を用意してきました。それは発表のためのShowcaseを開催し、Columbia300、TRACKの二つのボールを用意し、日本の6会場を縦断すること。もっともエキサイティングなのは、今回Columbia300と契約を済ませたOsku Palermas(オスク・パレルマ)を緊急来日させるということ。PBAタイトル通算5勝をもつオスクのパフォーマンスを間近で見られるチャンスが到来しましたので、これだけでも価値があります。今回のColumbia300最新作のBALLERは、Big Time Coreという強い非対称の全く新しいデザインのコアで、1つの面に重さが集中しています。この不安定な状態は回転が加わることでよりエネルギーが大きくなり、コアは大きくネジれて曲がりを変えられます。この大きなネジれを受け止める最新のカバーはERT Hybridと命名された、より弾性を持った高分子で構成されている「エラストマー素材」で、リアクティブの性能は「どれだけレーンに吸い付いてくれるかどうか」です。このERT(エラストマー)は弾性を持たせることでレーンとの接地面積を増やして曲がり大きくし、それだけでなくより安定した曲がりを出す構造です。テストングの感想は2000アブラロン仕上げですがキャッチを伴いながらスキッドも感じ、バックエンドで「ひっくり返る」ようなリアクション特性を感じました。非常にアグレッシブなバックエンドの曲がり、他のボールでややキャリアを感じて入射角が甘くなる傾向のラインを、鋭い動きで入射角も十二分に得られる違いがあります。特にバックエンドの動きに特徴を持たせ、かなり鋭いシャープなイメージが印象に残るので、従来のColumbia300の動きとは一線を介した新たな領域のボールと言えます。このリアクション実現には独自路線の開発から、他社メーカーを意識した新たなコアとカバーの開発が必要不可欠になります。その研究結果が見事パフォーマンスをなっており表れています。

### 特記事項

さぎでの動きは「エグさ」まで感じるほど、オイルに対しての強さと同時に奥の動きも他社メーカーに引けを取らないほど、むしろおつりがあるぐらい動きます。長い年月の開発結果がついに実を結びます。